

# 2021年度事業計画

---

一般財団法人日本ドッジボール協会

# 活動再開に合わせた、コロナ禍からの回復

## ● 国内の状況

● 全国大会を目指す小学生D1/D1Gチーム  
(614チーム／-95チーム)

● 全国大会を目指す中学生以上の登録競技者  
(1070名※／-370名)

● 公認審判員(3670名／-430名)  
● 公認指導者(2800名／-400名)

新型コロナウイルスの影響で活動できない状況が続いたため、いずれも大幅に減少しています。  
また、スポンサー企業本体の運営状況も悪化しており、今後も不透明な環境が予測されます。

しかしながら、アンケート結果からはチームや選手の意識は保たれています。

全国大会参加チーム簡易アンケート（ただし女子総合選手権のみ）

D1G（小学生女子）チーム

- 学校等外部からの指導依頼の機会があれば、指導者の4割は積極的に実現希望、3割は前向きに検討
- 6年生の7割 卒業後、もし環境があれば活動継続を希望

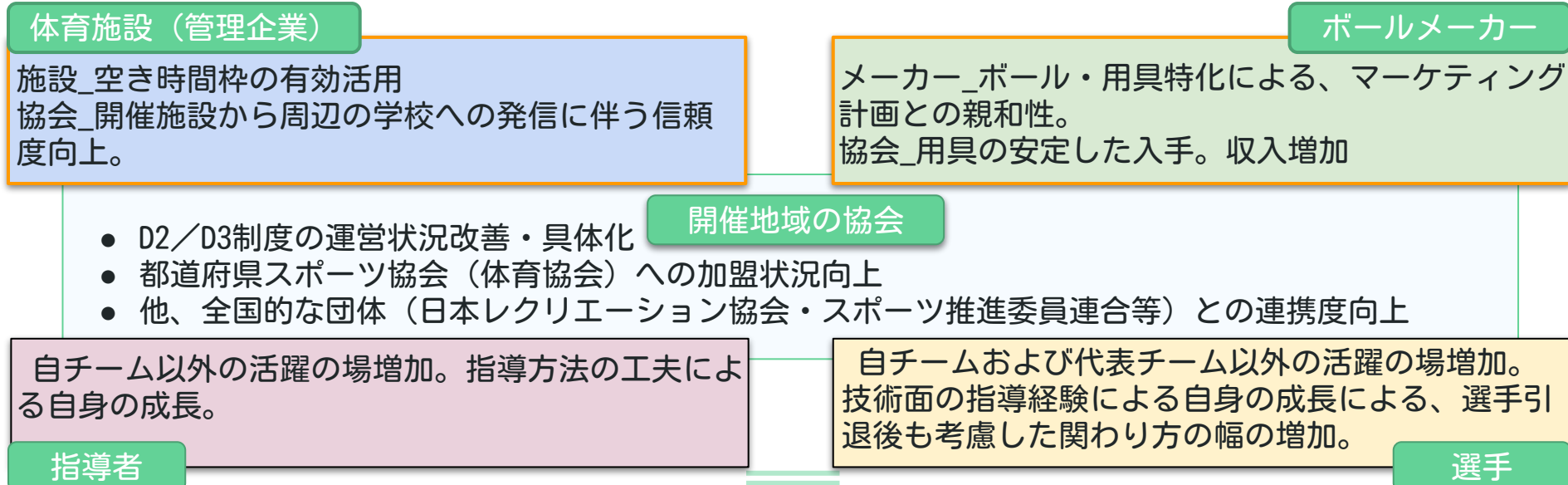
シニア女子（中学生～社会人女子）チーム

- 個人参加可能な練習施設があれば利用したい 6割以上
- 未経験選手の受け入れ 9割以上

チーム登録の推進

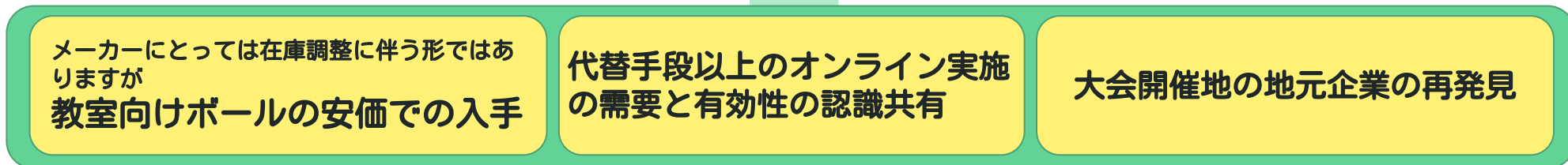
活動継続への意欲自体には変化なし。

## ➤ 2020計画から再掲載\_負担を分散しながら、空白の地域や年齢層への働きかけ



2019年度は下記の図の上段の要素に一定の需要が見込めたことで新たな関係構築を計画していました。しかしながら、2020年度にかけてほぼ全てのイベントが中止となったため、具体的に進展させることはできませんでした。

一方で、事業の制限・移動の制限は、下記の点において2019年度末よりも好転した環境をもたらしています。



**1年前よりも選択肢が増えたと捉えることにより、活動自粛前の規模に戻すことを目指します。**

## ● 海外に向けた取り組み

### 2020年度当初の構想

マルチボールでの2020世界大会での入賞により実力を示し、各団体における相互のルール普及によるスポーツ文化の発展



安心できる環境が整い、新たな国際大会のスケジュールが具体化されるまで一旦保留



国際委員会の各部署を中心に、他の委員会との連携の下で、国内でのマルチボールの紹介／普及と、オンライン上（国際団体HP上）で実現可能な手段でのシングルボール紹介の充実に取り組む。

### 審判部

- JDBAルール資料簡略版（英語版）の精査とルール全体の英訳版の開始
- 2019年度第1回ヘッドレフェリー講習会の資料の更新と加盟団体への紹介

### 選手強化部

- 歴代代表選手の情報整理と、引退後を含めた他の活躍機会／協力体制の整備
- 次世代のスタッフ・選手選考の枠組み検討
- 選手強化トレーニング映像の作成

### 事業企画部

- 既存の全国大会でのマルチボールエキシビジョン試合実施⇒正式種目としての取り上げ検討
- マルチ種目用ボールの国内供給・製造手段の検討
- 各国際団体との関係性共有
- 国内誘致候補箇所の情報整理

関連：アスリート委員会の準備（ガバナンスコード）

→ 仕切り直しつつも、長期的には両種目での日本での国際大会開催の実現を目指します。

## ● 全スポーツ団体共通の取り組み

スポーツ団体ガバナンスコードへの適合

2023年度の適合審査に至るまでの段階として引き続き整備を進めますが、特に組織編制上の課題となる、多様性の確保・強化を図ります。

- 女性役員4割／外部役員2.5割へ向けた計画設定
- アスリート委員会の設置準備

以上、2021年度は、前年度時点で延期となった計画を実施しつつ、コロナ禍でも好転した変化を取り込み、再構築を図ります。

## 2021年度主要事業（大会関連）

	日程	事業	場所
①	8月15日(日)	第30回全日本ドッジボール選手権全国大会 ● 2024年度まで同会場での開催決定	茨城県水戸市 アダストリアみとアリーナ
②	9月19日(日)	2021J. D. B. A. 全日本選手権	長野県長野市 ホワイトリング
③	11月28日(日)	第8回全日本女子総合選手権	茨城県水戸市 アダストリアみとアリーナ
④	2022年 3月28日(日)	第31回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会 ● 中国ブロック初開催	広島県広島市 広島グリーンアリーナ

※国際大会に関しては、海外団体の調整結果を待って再度計画します。

④2019年度には中止となったため、改めて**中国ブロックとして初開催**となります。地域の普及に繋がるよう取り組むとともに、開催県の組織力向上にも取り組みます。

	参加数	予選数	
④第31回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	広島グリーンアリーナ 前年度優勝チーム輩出県は+1



スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

①③ 2024年度までの夏の全国大会は、専用コートを用いて同会場での開催が決定しています。全日本女子総合選手権と同じ会場となる機会を活かし、2020年度に実現できなかった下記項目に再度取り組みます。

- 隣接し、全体的な規模減少が懸念材料となっている東北地域のチーム増加へ繋げる。
- 女子総合選手権のシニア女子部門に関して、**広島での春の小学生全国大会を機に、これまで選出の無かった中国ブロックからの参加に取り組む。**

	参加数	予選数	
①第30回全日本ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	アダストリアみとアリーナ 前年度優勝枠輩出県+1
③第8回全日本女子総合選手権	D1G 32チーム シニア女子16チーム 計800名	7ブロック	アダストリアみとアリーナ

※2020年度は中止となった台湾チームの来日が復活した場合は、改めて検討します。

②全日本選手権は長野県での初開催となります。

審判員数の最も多い県協会であり、安定した大会運営を期待できます。また、本大会開催後、翌日には県協会主催の30周年記念大会も予定されております。中学生以上の大会は限られている上、前年度は中止となった大会でもありますので、参加者の幅を少しでも増やせるよう取り組みます。

	参加数	予選数	
②2021J. D. B. A. 全日本選手権	32チーム500名	9ブロック	チーム登録制度の整備

## 年間を通じて、各委員会を横断して取り組む事業

2021年度単体ではコロナウイルス前の水準への回復が目標となりますが、中長期的にはNFとして学校や地域等、協会外のドッジボールとも関わり、体系化への構想を進めています。（※小学生に絞った場合でも国内で630万人：JDBAドッジボールは4万人程度）  
まずは全国大会の開催地・開催機会を利用した動きとなります。

### ●3号練習球・2号球等、協会内外での目的別／成長段階別のドッジボールの必要性有無、及び規格検証

2020年度でも挙げたものの、通常の活動がほとんどできなかったため、再度、現状でのボールメーカーの意図との接点を基に用具の必要性有無を含めた研究を進めます。

### ●加盟協会ごとのカバー領域の分析

もともとの活動範囲の格差に加え、今回のコロナウイルスの影響が一年以上に及んでいる要因も加わり、一律的な目標設定は困難と予想されます。

改めて2019年度（コロナウイルスの影響前の時点）と現時点の活動状況をまとめ、

- ・開催地協会の思惑
- ・周辺自治体のスポーツに関する支援制度や計画
- ・関係者（シニア選手・指導者・地元スポンサー）の分布

等の情報を重ねて、状況に即した柔軟な普及事業の実施を目指します。

### ●オンライン環境を活用した全国大会・委員会事業の広報の充実

大会・講演会のライブ配信や期間を定めた配信にはポジティブな意見が多くみられました。会場のスタッフの最適化を図ることを前提に、映像素材の充実を進めます。

## 専門委員会単位の定例事業／会議

各委員会から登録会員向けに行う認定会・講習会・研修会はそれぞれ次のとおりです。

### ●指導委員会

#### ・アシスタント指導員研修会

JSP0ドッジボールコーチ1取得指導者を対象に、指導委員と共に活動できる講師の育成

#### ・公認指導者講習会

集合学習④及び、講習会講習時間・テキスト内容の最適化

### ●競技委員会

・B級公認審判員認定会 9会場

・A級公認審判員認定会 (各地の2020年度事業中止に伴い推薦が無い場合は実施しない)

主な会議体につきましては、次のとおりとなります。

### ●理事会6回・評議員会2回(6月末/2月末)・ブロック長会議1回(時期未定)※

※今後の中長期的な課題についてブロック間の自主的な情報共有・制度調整の促進を目指せる構成を協議し実施

### ●国際団体間の会議は、いずれの団体とも開催有無を含めて未定

各全国大会の実行委員会・専門委員会毎の会議と合わせ、内容に応じてオンラインの活用も積極的に推進します。